『英學史論叢』標準書式について：

よりよい研究紀要を目指して

　島本　学

1．はじめに

　本ページは，必要事項を『英學史論叢』の書式によって記したサンプルである。

2．用紙と文字

　用紙はＢ5判白紙を用い，上部および下部に25mm，左右に20mm，それぞれ余白をとる。本文は10.5ポイント文字を使用し，1行あたり38文字，1ページ38行の書式によって作成する。フォントは，和文は明朝体，欧文はCenturyを用いる。和文中の読点は「，」（全角コンマ）とし，和文・欧文を問わず，英字・数字はすべて半角文字とする。

3．タイトル等

　本文第1ページに論文タイトル，執筆者名を記す。論文タイトルは18〜22ポイント文字を使用し，中央に置く。本サンプルでは，主タイトルを22ポイント，副題を18ポイントとしている1)。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて，右に寄せて記す。第1ページは，タイトル，執筆者名に続いて，30行を本文（見出しを含む）にあてる。論文末に，右に寄せて，執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。

4．見出し，注，文献

　本文中の見出しについては前節との間を1行アキとし，番号を付してゴシック体とする。但し，見出し中に欧文が含まれる場合にはそのフォントを Arial とする。注は尾注とし，本文中に右肩数字によって注のあることを明記する｡参考文献は論文末に一括して示す。

注

1) タイトルの文字数により，18〜22ポイントの範囲で調整すること。

参考文献

馬本 勉 (2009)「広島中学校『英語之基礎』における語彙選定」『英學史論叢』12, 13-24.

木村 毅 (1969)『丸善外史』丸善．

（備北大学庄原）